



「日本家族看護学会第29回学術集会」の報告と御礼
第29回学術集会長 濱田裕子



第29回学術集会は、「家族のもの語りを紡ぐ～現場発信の家族看護」のテーマのもと、2022年9月10日（土）、11日（日）に3年ぶりに現地と部分ハイブリッド（メイン会場のみライブ配信、オンライン配信：9月16日～10月31日）で開催することができましたこと、心より感謝申し上げます。会期中は924名（招待者含む）がご参加いただき、現地、福岡国際会議場には、両日で800名（初日383名、2日目417名）の方がご来場くださいました。ライブ配信（特別講演や教育講演、シンポジウム等）では、各120名～150名の方がご参加いただきました。コロナ禍で開催形態や演題発表方法、抄録開示の遅れなど、ご心配やご苦労、ご不便をおかけしましたこと改めてお詫び申し上げます。

学術集会では、特別講演2題、教育講演2題、2つのシンポジウムと、学術集会長企画や市民公開講座、一般演題73演題、交流集会12セッション、委員会企画6セッションなど多様なプログラムを皆さまのおかげで、開催することができ、「家族」や「家族看護」についてあらためて考えるひとときになりました。また、本年、家族看護学会が法人化されたことを記念して歴代理事長とともに交流会が開催できましたこと、大変光栄に存じます。

参加者アンケート（回答者112名）では、本学会全体の満足度について、「大変良かった」66%、「良かった」34%と良い評価をいただき、皆さまのおかげと感じています。最後に本学会を支えて下さいました、参加者はじめ、理事、評議委員、査読委員、企画委員、実行委員、学生ボランティアや企業や団体の皆様方に、感謝を込めて、ありがとうございました。これからも“家族”によりそう“家族看護”的輪が広がっていきますように。

シンポジウム2 「家族の語りから学ぶ」の座長を終えて
元 西九州大学 正野逸子



病と共に生きる患者さんを支えるご家族に、療養から看取りまでの体験を語っていただき、その語りから患者と家族の理解を深め、支援について示唆を得ることをシンポジウムの趣旨としました。配偶者をホームホスピスのスタッフと共に看取った木下氏（竹熊氏代読）、在宅で難病の母親を看取った川口氏、小児がんの子どもを病院で看取った添田氏の3名のご発表後、やまだようこ先生に指定発言いただき、語りが意味するもの「語りが語りを呼ぶ」、「無い。でも在る語り」、「私の経験が私たちの経験になる」の理解を深めました。

シンポジストの語り、やまだようこ先生のご発言、そして参加者のディスカッションから見えてきたことは、同じ体験をした家族であっても家族員個々にストーリーがあること、家族の体験の語りの機会を設けることは家族にも、看護職などケアする立場の者にも、重要な意味があり、支援の鍵となることでした。第29回の学術集会テーマ「家族のもの語りを紡ぐ」を締めくくるのにふさわしい内容で、家族とケアする看護職、両方に有意義な時間となつたと考えています。

JARFN29 学術集会長講演 家族の物語を紡ぐ を視聴して 島根県立大学 荒木さおり

濱田先生は看護の原点として、ターミナル期患者や重度障害児との出会い、ご自身の経験に基づく家族としての思いを語ってくださいました。研究成果を示される中で、看護の対象は家族もだと改めて感じると同時に、自分が今関わっている看護教育で出会う学生との関わり方とも重なりました。コロナ禍において、学生から将来への不安を聞く機会が増えたように感じています。これまででは学生の将来という時間的空間的な広がりにまで思いを馳せることは少なかったのですが、今対応している学生の将来を共に描きながら伴走するスタンスを大切にして関わり続けたいとより強く感じることができたご講演でした。「Build and destroy」の精神で臨床の看護師や多職種の方々と積極的に意見を交わし、自身の看護観・価値観を見つめ直しながら、教育・研究者として成長していきたいと思います。オンデマンド配信でじっくりと繰り返しご講演を聴講できましたことに感謝いたします。

法人化企画交流集会 九州大学大学院 相星香

一般社団法人化記念事業&第29回学術集会交流集会は約85名がご参加いただきました。前半の歴代理事長リレーメッセージでは、歴代理事長3名が設立から法人化に至るまでの数々のドラマを語ってください、会場に設置されたポスター「法人化へのあゆみ」の年譜がより身近に感じられ、設立者の故杉下知子初代理事長に想いを馳せる時間になりました。

後半は現役医師音楽ユニット「インスハート」さんをゲストでお招きし、ミニコンサートを開催しました。絶妙なトークのかけあいに笑い、家族のもの語りを紡ぐ歌と演奏に酔いしれ、多くの方が涙しました。写真からも会場の一体感が伝わると思います。

閉会時は記念品の福岡銘菓にちなみ、「博多一本締め」を参加者全員で行い、福岡開催を盛り上げました。コンサートが大盛況のため予定時間を超過し、ご迷惑をおかけしましたが、多くの方から肯定的な感想を頂戴しました。本当にありがとうございました。

研究奨励賞

第29回日本家族看護学会学術集会会員集会において、次の通り研究奨励賞が発表されました。

浅野 志保, 古瀬 みどり. (2020)
がん終末期の妻と死別して独居になった高齢男性の新たな日常性構築プロセス.
家族看護学研究, 26(1), 14-24.



日本家族看護学会第30回学術集会のご案内

テーマ : Dyadic Approach／もうひとつのいえづくり
学術集会長 : 山崎 あけみ(大阪大学大学院 教授)
会期 : 2023年9月9日(土)~10日(日)
会場 : 大阪大学吹田キャンパス(大阪府吹田市)
演題募集期間 : 2023年2月6日(月)~4月28日(金)正午
事前参加登録期間 : 2023年4月3日(月)~7月31日(月)

詳しくは学会ホームページをご覧ください。

<https://jarnf30.yupia.net/index.html>

＜編集後記＞ 今号は、第29回学術集会の関連記事を中心に企画しました。御寄稿下さいました先生方に深く感謝申し上げます。現地会場では対面ならではの闊達な議論や交流がされました。また、オンデマンド配信によって、コロナ禍において持ち場を離れることができない方々にもご参加いただき、新たな時代を感じる学術集会となりました。ポストコロナ時代の家族看護がどのように展開されていくのか不確実な昨今ではありますが、会員の皆様のご協力を賜りつつ、情報をお届けしてまいります。

担当委員 : 小西美樹 委員長 : 山崎あけみ